

議員説明会 会議録

1 開催日時

令和7年11月21日（金曜日） 午前10時50分 ～ 午前11時15分

2 件名

JR花巻駅東西自由通路（駅橋上化）整備に関する実施設計の概要について

3 議事録

（岩間総合政策部長）

それでは説明の2項目目、JR花巻駅東西自由通路（駅橋上化）整備に関する実施設計の概要について、建設部都市政策課よりご説明いたします。

蛭田建設部長。

（蛭田建設部長）

今般、JR花巻駅東西自由通路（駅橋上化）整備につきまして、具体的な事業費が出ましたので、その概要についてご説明いたします。

事前にお配りしておりました説明資料の2ページをご覧ください。

花巻駅橋上化・東西自由通路整備事業は、令和6年7月に完了した基本設計をもとに、令和6年11月からこれまで、実施設計を進めてまいりました。

・実施設計とは、具体的に工事を実施するために必要な設計・資料作成を行うもので、JR東日本と協定を締結して実施しております。

本年10月末日に、具体的な事業費が出そろったことから、設計内容と事業費について説明するものでございます。

3ページ目をご覧ください。ここでは、実施設計の内容について説明いたします。

花巻駅橋上化・東西自由通路としての基本的な構造である、こ線橋の架設位置、地上へ接続する階段の位置、こ線橋通路の幅といった基本的な構造に変更はありません。一方で東口の階段下に計画した倉庫は、利用者の滞留スペースを大きくとるために廃止し、エントランスを拡大しました。こちらは当初機械などを置くスペースとして検討しておりましたが、設計を進めるなかで大きなスペースは必要ないということが分かりましたので、このスペースを人の滞留スペースに変更したものです。

もう一つは改札口幅について、JR東日本において駅の運用として具体的に改札口を設計したところ、当初考えていたほど間口の幅が必要ないということが分かりましたので、改札口を縮小し、待合室を拡大する変更しております。

続きまして、4ページをご覧ください。今般、実施設計を進めるにあたり、物価や労務費の変動がありまして、事業費が増大することが分かったところであります。したがって、構造的にもコストダウンを図っていかないと難しいというところもございまして、コストの縮減をいくつか設計上で行っております。その内容をご説明いたします。

まずは、自由通路の高さを低くしております。天井材料を耐久性のある金属系仕上げ材に変更しております。それと、東口、西口共に階段妻部の底をとりやめております。あと床材料ですが、当初標準品でない大判タイルを考えていましたが、それをどこでも流通し

ているような標準の大きさのタイルに変更しております。自由通路の内壁材ですが、準不燃木材利用、木材を不燃に加工したのですが、それを木質系シート材、薄いシート状のものに変更するというものです。それと屋根の融雪装置を考えていましたが、日当たりも良いということで、凍結が構造にあまり影響しないであろうということが分かりましたので、融雪装置を取りやめたというような工夫をしております。

5 ページ目は、実施設計で検討した結果での東口の外観図となります。

6 ページ目は、西口の外観です。

7 ページ目は、東西南北のそれぞれの立面図を示しており、このような絵姿になるということでございます。

続いて、8 ページをご覧ください。事業費についてご説明いたします。

基本設計時には、設計費と工事費あわせて、将来の物価高騰分を考慮しない金額として、ただ令和6年3月までの物価等の変動分は含んでいるんですが、約39億円としておりました。基本設計の内容のまま、実施設計を行いコストを算出したところ、約10億円の事業費増が見込まれることが判明したことから、先ほど申し上げたようにいくつかコスト縮減をさせていただいたところ、約4.7億円のコスト縮減策を講じまして、結果的に、総額44.4億円、基本設計時より5.37億円の増となりました。この5.37億円は、基本設計完了時から令和10年までの5年間の物価や人件費の変動予測を加味したのになっております。5.37億円の内訳は右側の青いグラフのとおりで、およそ6割は人件費の高騰分となっているということでございます。

本日、この部分（事業費）につきまして、もう少し具体的にご説明を申し上げようと思ひまして、補足資料を1枚加えさせてもらいました。

補足資料の左側の基本設計時の事業費約39億円については同様でございます。物価や労務費の変動が続いていることから、先ほど申し上げたとおりコストダウンを図っております。また、設計費の実績額については、基本設計時には約2.6億円を見込んでいましたが、現状、実績値で約2.1億円ということでこちらを反映しております。更に、令和8年度から令和10年度の工事完了までの工事費をJR東日本が算出いたしました。

基本設計時の事業費約39億円から、実施設計において約4.7億円コストダウンを見込みましたが、令和6年4月から令和7年10月までの物価及び労務費の上昇により約4.2億円増となりまして、令和7年10月までの物価及び労務費の変動分を含んだ事業費は約38億円と試算されました。

更に、物価及び労務費の変動分を年間約2.1億円の増と想定しておりまして、令和8年度から令和10年度までの3年間の物価及び労務費の変動分約6.3億円を考慮しますと、最終的な事業費は約44.4億円という結果となっております。基本設計時点にお示しした事業費から約5.4億円の増ということになりました。

綴じている資料に戻りまして、9 ページ目でございます。

工事費42.28億円に対して、令和7年から令和10年の債務負担行為を、設定し、工事を実施してまいりたいと考えてございます。今後は、12月議会で補正予算として令和7年度から令和10年度までの4か年債務のご審議いただき、ご承認いただいた暁には、年度内にJR東日本と工事施行協定を締結し、JR東日本による工事発注などの手続きを進める所存でございます。

10ページ目をご覧ください。花巻駅橋上化・東西自由通路と西口駅前広場、西口駐車場の整備をまとめて、総額約50億円の事業となります。これらを、国の補助制度「都市構造再編集集中支援事業」を活用し進めてまいりたいと思っております。これは、事業費の1/2の国費補助を受けられるものでございます。また、補助金を除いた地方負担分については、合併特例債を活用いたします。これは、設定した合併特例債の70%が地方交付税措置されるものでございます。これらを、組み合わせることにより、最終的な花巻市の持ち出し分は全体の2割弱となる約8億5千万円ということになります。

このようにコスト縮減を図りながら進めてまいるところでございますが、物価及び労務費の変動につきましては、これまでの増分をトレンドで令和10年度まで引っ張っているところもあって、将来変動については分からないところもあり余談が許さないところではありますが、現状そういった想定でもって、具体的にいうと年間2.1億円ということになりますが、そういった想定を含んだ事業費でございますけれども、この形で事業を進めさせていただければと思います。本日の説明については以上でございます。

（岩間総合政策部長）

このことにつきまして、ご質問等をお受けしたいと思います。

照井明子議員。

（照井明子議員）

今の部長の発言にもあったように、今回、今日は約44.4億円という予算を示しましたが、完成まで、物価変動、労務費変動があるので、今後、この金額については変動するというふうに理解してよろしいでしょうか。

（岩間総合政策部長）

蛭田建設部長。

（蛭田建設部長）

お答えします。これからも事業費が変動するかというお問い合わせかと思いますが、こちらについては、物価や労務費の変動、社会情勢等に応じて変化する可能性はございます。その変化とは、増える変化もございますが、減る変化もございまして、減る方向も可能性としてはないわけではないということで、いずれにしてもこの数字は固定ではなく、そういった変化に合わせた実績値をもって精算する形をとりたいと思っています。

（岩間総合政策部長）

その他、ございますでしょうか。

及川恒雄議員。

（及川恒雄議員）

確認なんですけれども、今回かなり金額的に上がるということですが、都市構造再編集集中支援事業について、これはもうすでに採択されるという要件のもとでよろしいでしょう

か。

（岩間総合政策部長）

高橋課長補佐。

（高橋都市政策課長補佐）

お答えいたします。このＪＲ花巻駅東西自由通路（駅橋上化）整備事業については、都市再生整備計画をすでに提出しておりまして、事業自体はすでに採択されております。物価等の変動による事業費の増については、現在、国と協議を行っておりまして、認めていただける方向で協議が進んでおります。

（岩間総合政策部長）

その他、ございますでしょうか。

それでは、項目の２つ目の説明を終わらせていただきます。

以上をもちまして、本日の議員説明会を終了いたします。